医療とAI・ビッグデータ応用

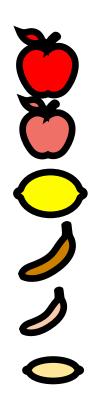
教師なし機械学習2(クラスタリング)

本スライドは、自由にお使いください。 使用した場合は、このQRコードからアンケート に回答をお願いします。



統合教育機構 須藤毅顕

前回の教師なし機械学習(次元削減)



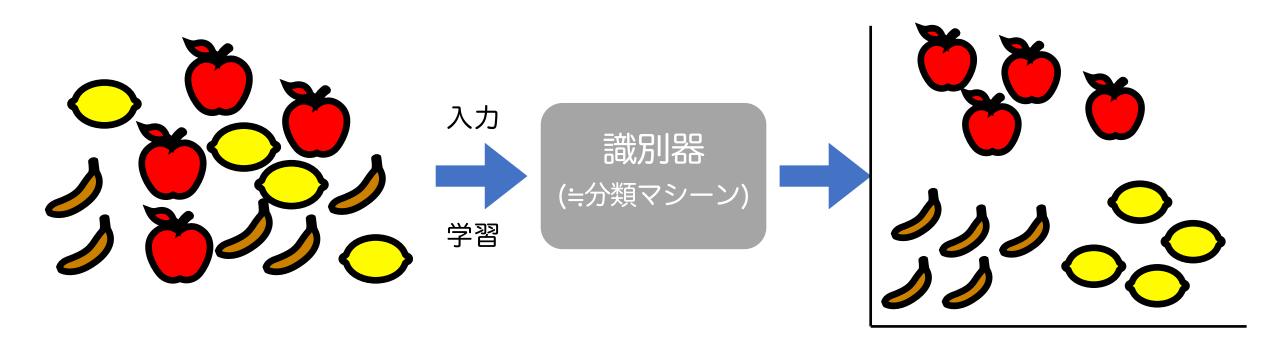
	色合い	大きさ	甘さレベル
りんご1	10	100	9
りんご2	8	88	6
れもん1	9	80	2
バナナ1	5	73	7
バナナ2	7	50	4
れもん2	6	40	1



	果物の評価
りんご1	9
りんご2	6
れもん1	2
バナナ1	7
バナナ2	5
れもん2	1

教師なし学習は色合い、大きさ、甘さレベルという特徴から果物の評価という 新たな1つの情報を作り出す

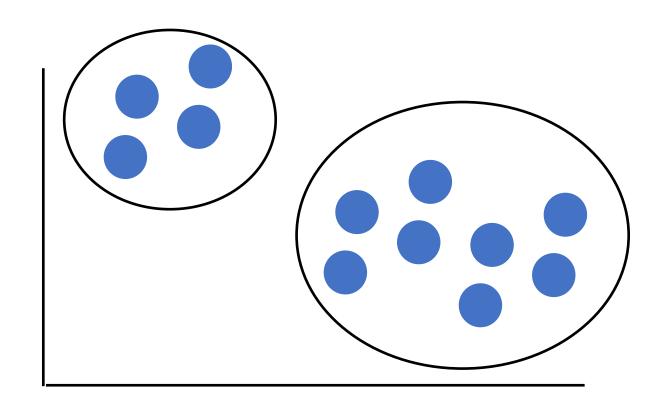
今回の教師なし機械学習(クラスタリング)



教師なし学習は正解を与えず学習させて識別器を作る(法則を見つけさせる)

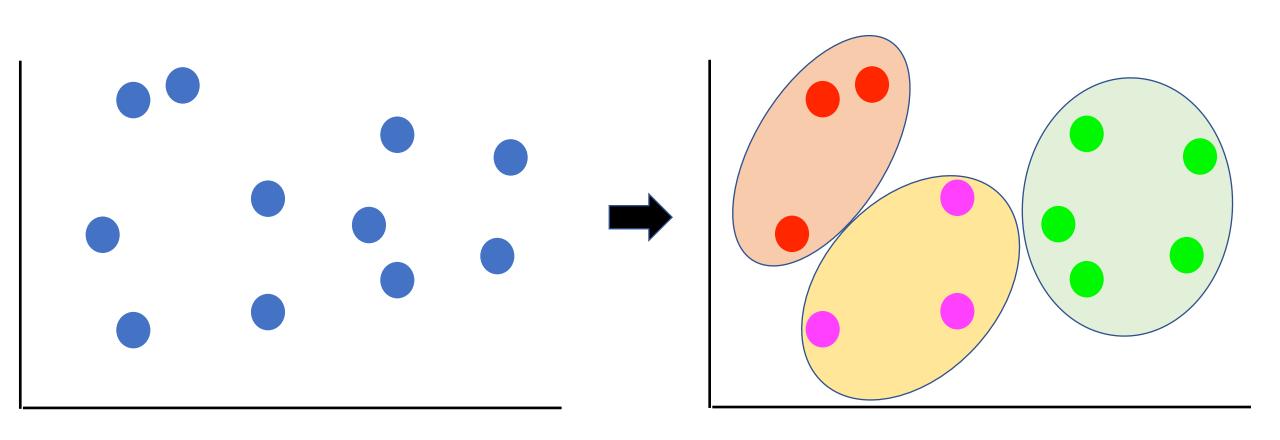
クラスタリング

データの似ているもの同士でグループ分けする手法

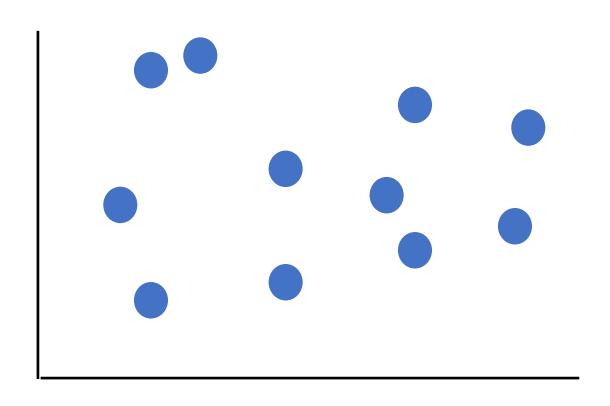


どのような法則でクラスタリングを行うか

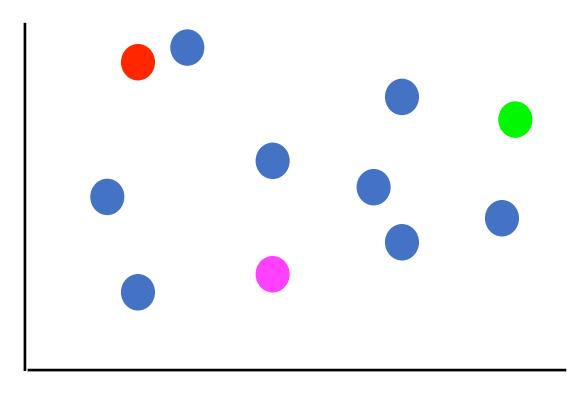
クラスタリングでも最も基本的なアルゴリズム k個のクラスタ(グループ)を作成するのでk-means法と呼ばれる



①分けるクラスタ数を決定する(今回は3とする)

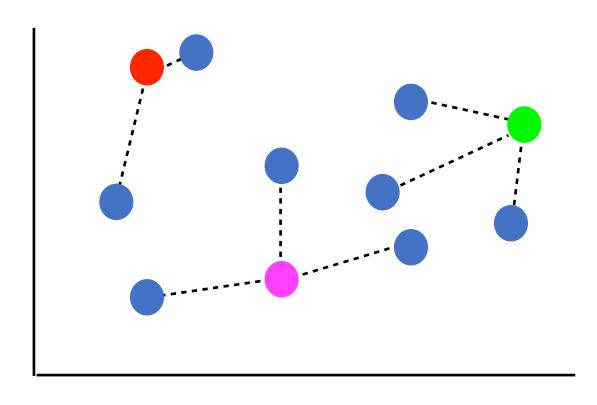


- ①分けるクラスタ数を決定する(今回は3とする)
- ②ランダムにクラスタの個数分データを選ぶ



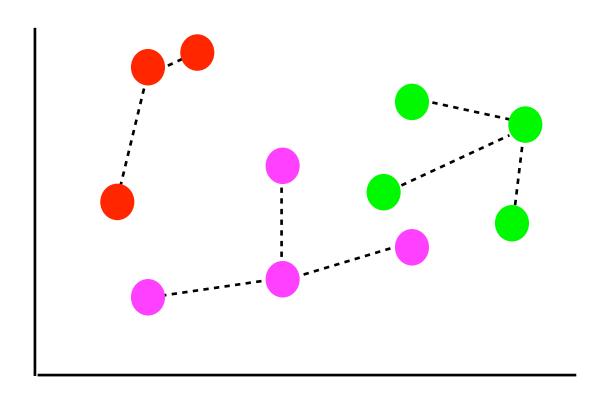
この3点を代表点とする

③データを各代表点の距離をもとに各クラスタに所属させる



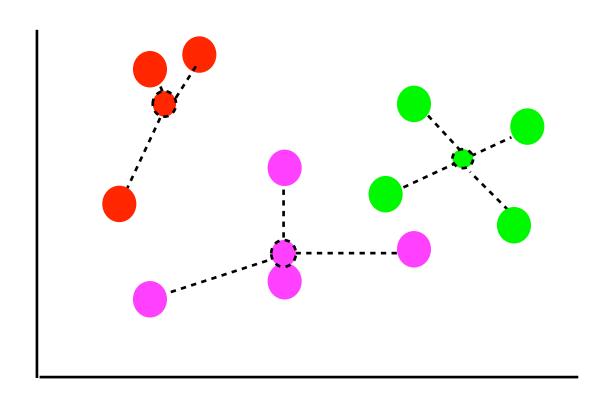
各データは一番近い距離の代表点の所属となる

③データを各代表点の距離をもとに各クラスタに所属させる

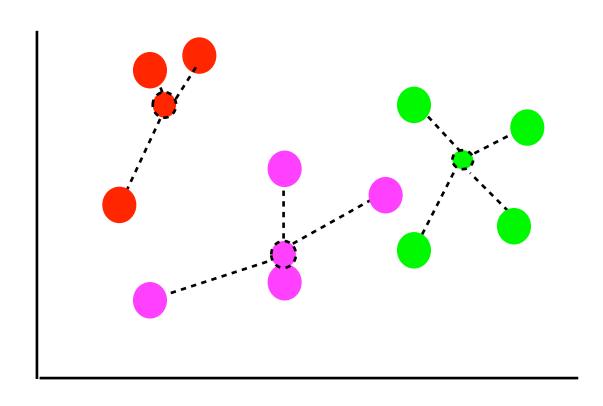


各データは一番近い距離の代表点の所属となる

④各クラスタの重心を新たな代表点とする

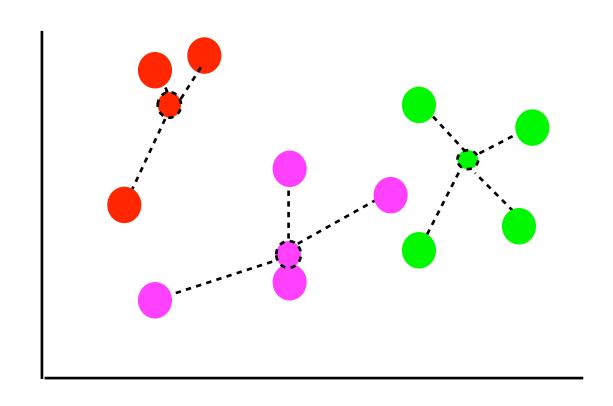


⑤再度、代表点をもとに所属するクラスタを変えます



距離が変わるので所属するクラスタが変わります

新たなクラスタに従って再度重心の計算、クラスタの変更を行う 以下、これを繰り返し、代表点が変わらなくなったら終了



アヤメのデータを読み込む

```
from sklearn.datasets import load_iris
iris = load_iris()
iris.data
```

アヤメのデータを読み込む

4つの特徴量 (がく片の長さ、がく片の幅、 花びらの長さ、花びらの幅) を取り出してiris.dataに代入

```
がく片の長さ がく片の幅 花びらの長さ 花びらの幅
array([[5.1, 3.5, 1.4, 0.2],
       [4.9, 3., 1.4, 0.2],
       [4.7, 3.2, 1.3, 0.2],
       [4.6, 3.1, 1.5, 0.2],
       [5., 3.6, 1.4, 0.2],
       [5.4, 3.9, 1.7, 0.4],
       [4.6, 3.4, 1.4, 0.3],
       [5., 3.4, 1.5, 0.2],
       [4.4, 2.9, 1.4, 0.2],
       [4.9, 3.1, 1.5, 0.1],
       [5.4, 3.7, 1.5, 0.2],
       [4.8, 3.4, 1.6, 0.2],
```

がく片の長さと幅のデータを取得する

がく片の長さと幅だけを取り出す

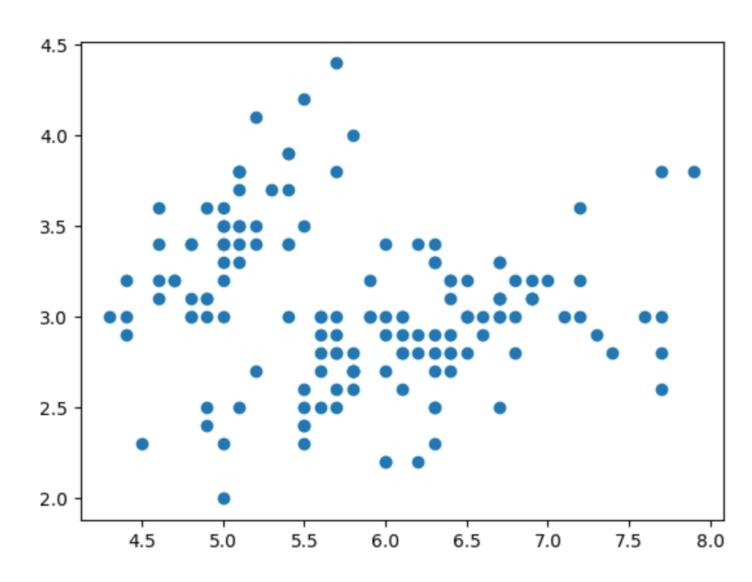
```
gaku = iris.data[:,0:2]
gaku
array([[5.1, 3.5],
       [4.9, 3.],
       [4.7, 3.2],
       [4.6, 3.1],
       [5., 3.6],
       [5.4, 3.9],
       [4.6, 3.4],
       [5., 3.4],
       [4.4, 2.9],
       [4.9, 3.1],
       [5.4, 3.7],
       [4.8, 3.4],
       [4.8, 3.],
       [4.3, 3.],
       [5.8, 4.],
       [5.7, 4.4],
       [5.4, 3.9],
       [5.1, 3.5],
       [5.7, 3.8],
       [5.1, 3.8],
       [5.4, 3.4],
```

```
がく片の長さ がく片の幅 花びらの長さ 花びらの幅
```

がく片の長さと幅のデータを図示する

```
import matplotlib.pyplot as plt
plt.scatter(gaku[:,0],gaku[:,1])
plt.show()
```

x軸にがく片の長さ、 y軸にがく片の幅として図示



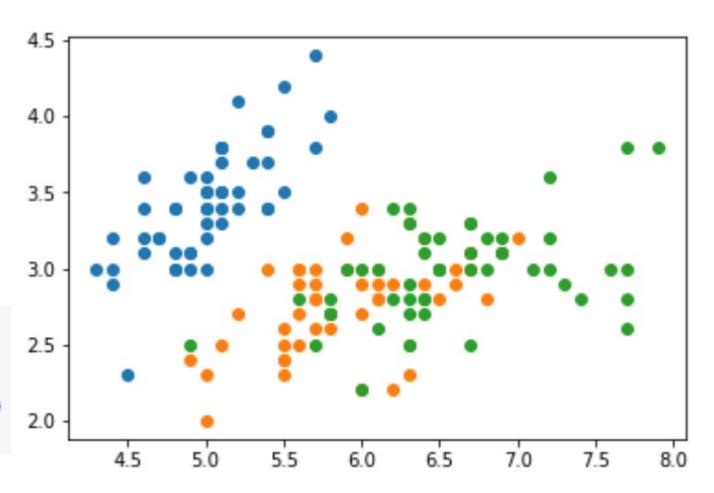
がく片の長さと幅のデータを図示する

アヤメの種類で分ける

```
import matplotlib.pyplot as plt
plt.scatter(gaku[:,0],gaku[:,1])
plt.show()
```



```
import matplotlib.pyplot as plt
plt.scatter(gaku[0:50,0],gaku[0:50:,1])
plt.scatter(gaku[50:100,0],gaku[50:100,1])
plt.scatter(gaku[100:150,0],gaku[100:150,1])
plt.show()
```



色を指定しないと勝手に色が 割り当てられます

k-means法を実行する

モデル名=Kmeans()で実行
n_clusters=~~でクラスタリングしたい数を入力する
random_state=0は皆同じ結果になるためのランダムの指定
クラスタリング結果はmodel.predict()で表示される

```
from sklearn.cluster import KMeans
model = KMeans(n_clusters=3, random_state=0)
model.fit(gaku)
cluster=model.predict(gaku)
print(cluster)
2 0]
```

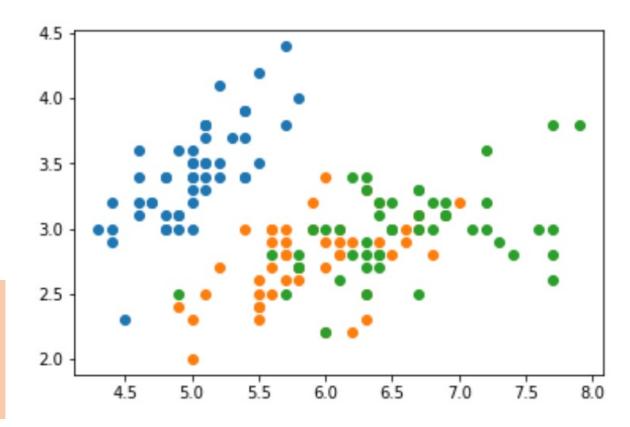
クラスタリングの結果、150個のデータが0,1,2に分けられた。

クラスター0,1,2毎にがく片の長さと幅で図示したい

```
import matplotlib.pyplot as plt
plt.scatter(gaku[0:50,0],gaku[0:50:,1])
plt.scatter(gaku[50:100,0],gaku[50:100,1])
plt.scatter(gaku[100:150,0],gaku[100:150,1])
plt.show()
```



```
plt.figure() plt.scatter(クラスタ0のがく片の長さ,クラスタ0のがく片の幅) plt.scatter(クラスタ1のがく片の長さ,クラスタ1のがく片の幅) plt.scatter(クラスタ2のがく片の長さ,クラスタ2のがく片の幅) plt.show()
```



前回と似たやり方で

```
gaku
array([[5.1, 3.5],
       [4.9, 3.],
       [4.7, 3.2],
       [4.6, 3.1],
       [5., 3.6],
       [5.4, 3.9],
       [4.6, 3.4],
       [5., 3.4],
       [4.4, 2.9],
       [4.9, 3.1],
       [5.4, 3.7],
       [4.8, 3.4],
       [4.8, 3.],
       [4.3, 3.],
       [5.8, 4.],
       [5.7, 4.4],
       [5.4, 3.9],
       [5.1, 3.5],
       [5.7, 3.8],
       [5.1, 3.8],
       [5.4, 3.4],
       [5.1, 3.7],
```

gakuは150個のアヤメの萼片の長さと幅 (150,2) clusterは150個のアヤメのクラスタリング結果 (150,)

クラスタが0か否か(True or False)

```
cluster == 0
array([False, False, False, False, False, False, False, False,
      False, False, False, False, False, False, False, True,
      False, True, False, True, False, True, True, True, True,
      True, True, False, True, True, True, True, True, True,
      True, True, False, False, False, True, True, True,
      True, True, True, True, False, True, True, True,
      True, True, True, True, True, True, True, True, True,
      True, False, True, False, False, False, True, False,
      False, False, False, False, True, True, False, False,
      False, False, True, False, True, False, True, False, False,
      True, True, False, False, False, False, True, True,
      False, False, False, True, False, False, False, True, False,
      False, False, True, False, False, True])
```

cluster == 0 は150行分ののTrue(クラスタが0)かFalse(クラスタが 1 か 2) の配列になる

gakuの全ての行の1列目(がく片の長さ)

```
gaku[:,0]

array([5.1, 4.9, 4.7, 4.6, 5. , 5.4, 4.6, 5. , 4.4, 4.9, 5.4, 4.8, 4.8, 4.3, 5.8, 5.7, 5.4, 5.1, 5.7, 5.1, 5.4, 5.1, 4.6, 5.1, 4.8, 5. , 5. , 5.2, 5.2, 4.7, 4.8, 5.4, 5.2, 5.5, 4.9, 5. , 5.5, 4.9, 4.4, 5.1, 5. , 4.5, 4.4, 5. , 5.1, 4.8, 5.1, 4.6, 5.3, 5. , 7. , 6.4, 6.9, 5.5, 6.5, 5.7, 6.3, 4.9, 6.6, 5.2, 5. , 5.9, 6. , 6.1, 5.6, 6.7, 5.6, 5.8, 6.2, 5.6, 5.9, 6.1, 6.3, 6.1, 6.4, 6.6, 6.8, 6.7, 6. , 5.7, 5.5, 5.5, 5.8, 6. , 5.4, 6. , 6.7, 6.3, 5.6, 5.5, 5.5, 6.1, 5.8, 5. , 5.6, 5.7, 5.7, 6.2, 5.1, 5.7, 6.3, 5.8, 7.1, 6.3, 6.5, 7.6, 4.9, 7.3, 6.7, 7.2, 6.5, 6.4, 6.8, 5.7, 5.8, 6.4, 6.5, 7.7, 7.7, 6. , 6.9, 5.6, 7.7, 6.3, 6.4, 6.8, 5.7, 5.8, 6.4, 6.5, 7.4, 7.9, 6.4, 6.3, 6.1, 7.7, 6.3, 6.4, 6. , 6.9, 6.7, 6.9, 5.8, 6.8, 6.7, 6.7, 6.3, 6.5, 6.2, 5.9])
```

cluster == 0の時にTrueのデータ を取り出す

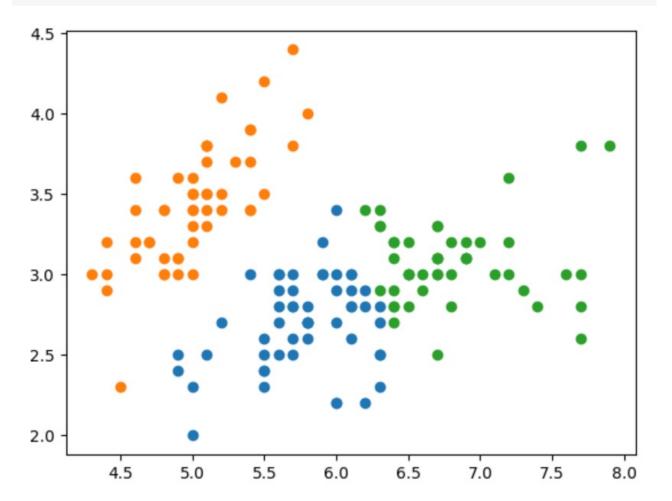
```
gaku[cluster==0,0]

array([5.5, 5.7, 4.9, 5.2, 5. , 5.9, 6. , 6.1, 5.6, 5.6, 5.8, 6.2, 5.6, 5.9, 6.1, 6.3, 6.1, 6. , 5.7, 5.5, 5.5, 5.8, 6. , 5.4, 6. , 6.3, 5.6, 5.5, 5.5, 6.1, 5.8, 5. , 5.6, 5.7, 5.7, 6.2, 5.1, 5.7, 5.8, 4.9, 5.7, 5.8, 6. , 5.6, 6.3, 6.2, 6.1, 6.3, 6.1, 6. , 5.8, 6.3, 5.9])
```

これでクラスタが0の がく片の長さのみ取り出せた

前回の次元削減の時のスライ ドも参考にしてください

```
plt.scatter(gaku[cluster==0,0],gaku[cluster==0,1])
plt.scatter(gaku[cluster==1,0],gaku[cluster==1,1])
plt.scatter(gaku[cluster==2,0],gaku[cluster==2,1])
plt.show()
```



←クラスタが0の時のがく片の長さ(x)と幅(y)

←クラスタが1の時のがく片の長さ(x)と幅(y)

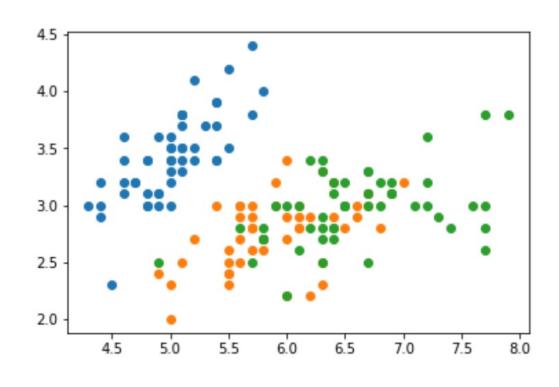
←クラスタが2の時のがく片の長さ(x)と幅(y)

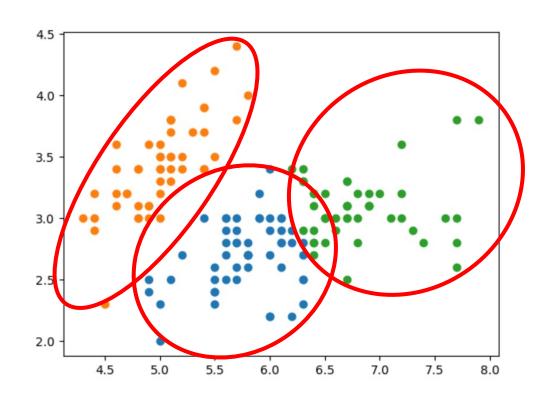
クラスタリングは距離に基づいて データを決めた個数のグループに分ける

アヤメの正解ラベルを見ずに3つのグループに分けられた

アヤメの種類で色分け

クラスタリングの結果(クラスタ0,1,2)で色分け





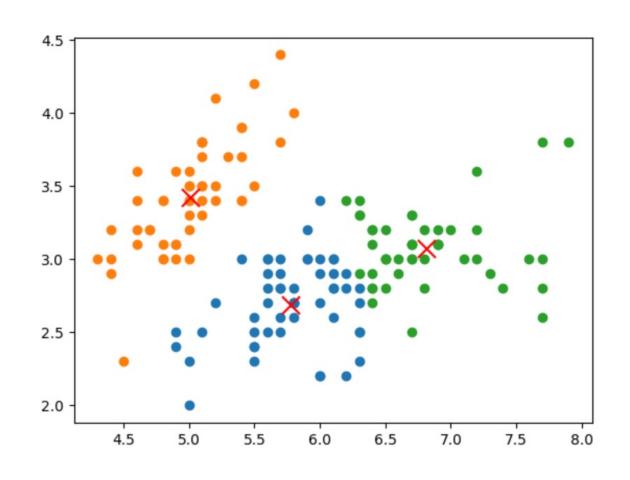
クラスタリングは距離に基づいてデータを決めた個数のグループに分ける

(補足)クラスタの重心を図示

cluster_centers_でクラスタの重心を取得できる

クラスタ数3にしているので、 (5.77, 2.69),(5.01, 3.43),(6.81, 3.07) の3点で(3,2)の配列になっている

```
import matplotlib.pyplot as plt
plt.scatter(gaku[cluster==0,0],gaku[cluster==0,1])
plt.scatter(gaku[cluster==1,0],gaku[cluster==1,1])
plt.scatter(gaku[cluster==2,0],gaku[cluster==2,1])
centers = model.cluster_centers_
plt.scatter(centers[:, 0], centers[:, 1], c='r', s=150, marker='x')
plt.show()
```



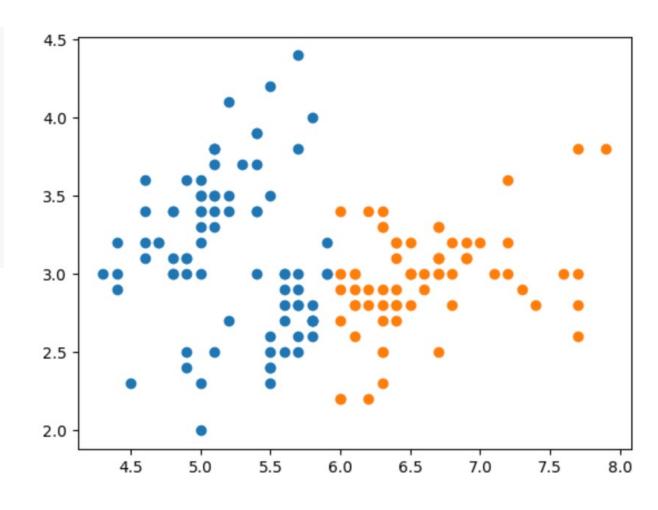
確かに各クラスタの中心に位置していることが確認できる

クラスタ数を変える

```
from sklearn.cluster import KMeans
model = KMeans(n_clusters=2, random_state=0)
model.fit(gaku)
cluster=model.predict(gaku)
print(cluster)

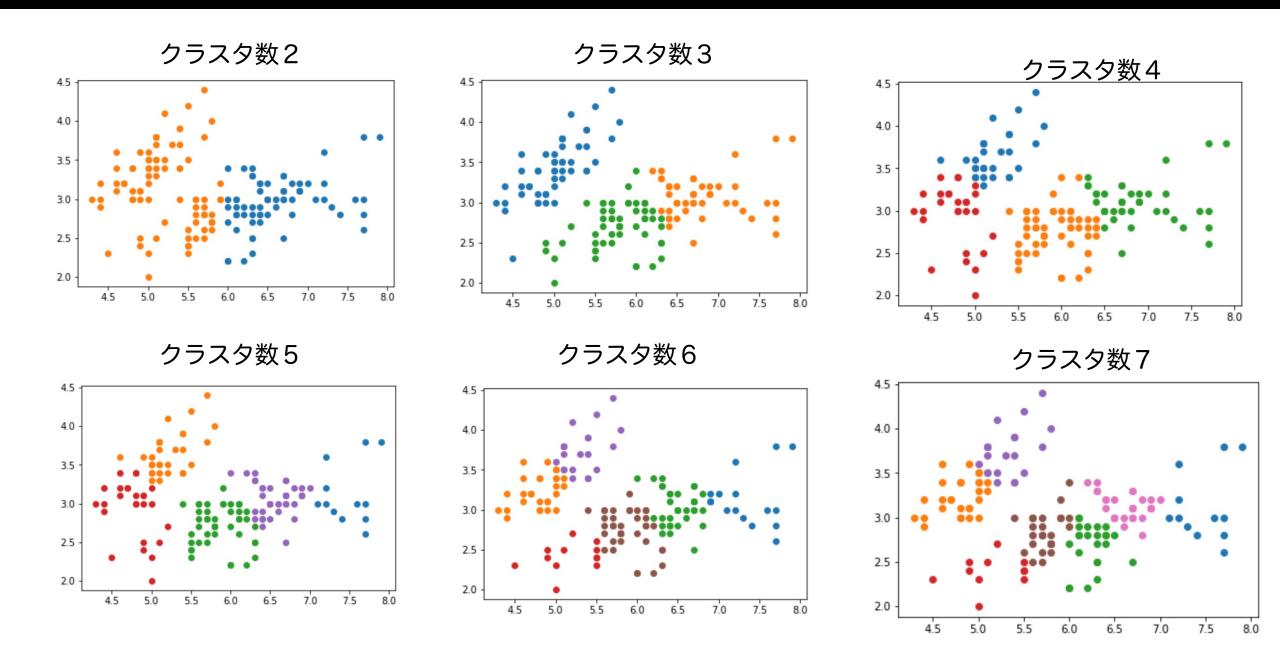
plt.scatter(gaku[cluster==0,0],gaku[cluster==0,1])
plt.scatter(gaku[cluster==1,0],gaku[cluster==1,1])
plt.show()
```

クラスタ数2の結果



散布図の結果

クラスタ数を変える



がく片の長さと幅(の2次元の特徴量)でクラスタリングを行ったが、3次元以上の特徴量でも同様にクラスタリングが可能

```
from sklearn.datasets import load_iris
iris = load_iris()
iris.data
array([[5.1, 3.5, 1.4, 0.2],
       [4.9, 3., 1.4, 0.2],
       [4.7, 3.2, 1.3, 0.2],
       [4.6, 3.1, 1.5, 0.2],
       [5., 3.6, 1.4, 0.2],
       [5.4, 3.9, 1.7, 0.4],
       [4.6, 3.4, 1.4, 0.3],
       [5., 3.4, 1.5, 0.2]
       [4.4, 2.9, 1.4, 0.2],
       [4.9, 3.1, 1.5, 0.1],
       [5.4, 3.7, 1.5, 0.2],
       [4.8, 3.4, 1.6, 0.2],
       [4.8, 3., 1.4, 0.1],
```

```
gaku = iris.data[:,0:2]
gaku
      LT:J, J: ],
      [5.8, 4.],
      [5.7, 4.4],
      [5.4, 3.9],
      [5.1, 3.5],
      [5.7, 3.8],
      [5.1, 3.8],
      [5.4, 3.4],
                               gakuをiris.dataに変更して
      [5.1, 3.7],
                               クラスタリング
      [4.6, 3.6],
      [5.1, 3.3],
      [4.8, 3.4],
      [5., 3.],
      [5., 3.4],
      [5.2, 3.5]
```

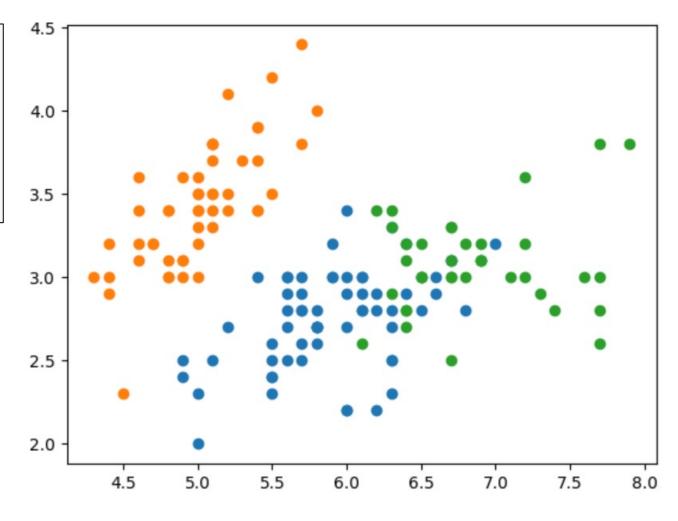
iris.dataは特徴量4の(150,4) gakuは特徴量2の(150,2)

がく片の長さと幅(の2次元の特徴量)でクラスタリングを行ったが、3次元以上の特徴量でも同様にクラスタリングが可能

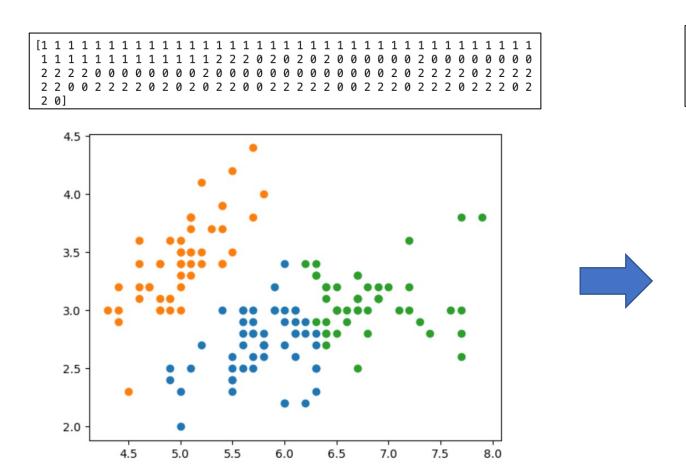
```
model = KMeans(n_clusters=3, random_state=0)
model.fit(iris.data)
cluster=model.predict(iris.data)
print(cluster)

plt.scatter(iris.data[cluster==0,0],iris.data[cluster==0,1])
plt.scatter(iris.data[cluster==1,0],iris.data[cluster==1,1])
plt.scatter(iris.data[cluster==2,0],iris.data[cluster==2,1])
plt.show()
```

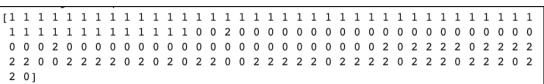
クラスタ数3の結果

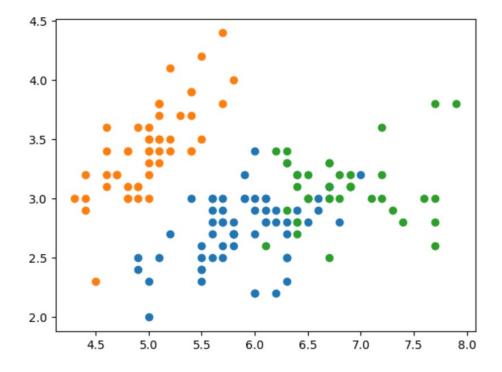


同じクラスタ数(0,1,2)だが、学習するデータ量が違う(2次元と4次元)。 4次元のデータによるクラスタリングを2次元で可視化しているのでやや混ざっている部位もあり。



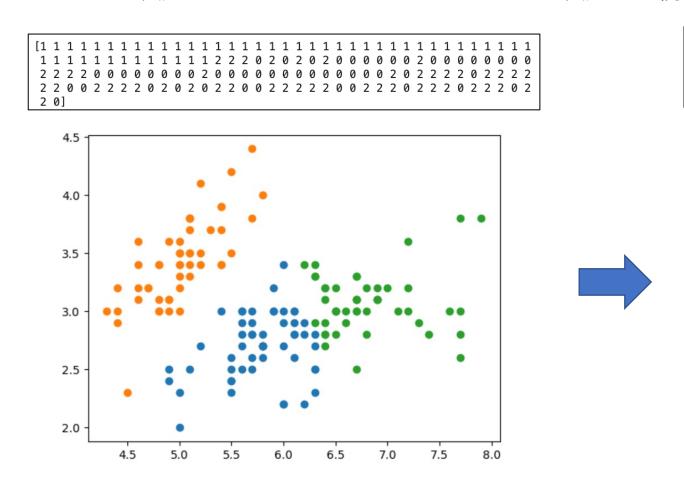
がく片の長さと幅でクラスタリング し、がく片の長さと幅で図示



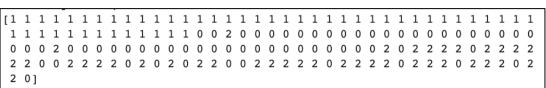


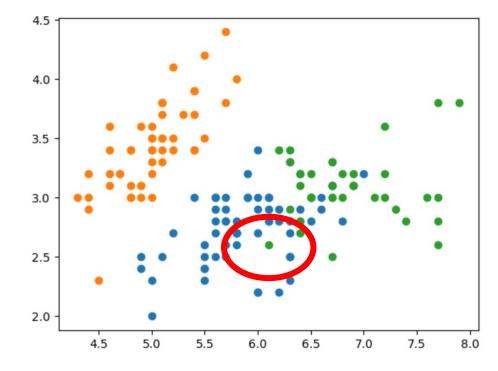
がく片の長さと幅、花びらの長さと幅でクラスタリングし、がく片の長さと幅で図示

同じクラスタ数(0,1,2)だが、学習するデータ量が違う(2次元と4次元)。 4次元のデータによるクラスタリングを2次元で可視化しているのでやや混ざっている部位もあり。



がく片の長さと幅でクラスタリング し、がく片の長さと幅で図示





がく片の長さと幅、花びらの長さと幅でク ラスタリングし、がく片の長さと幅で図示

3次元以上のクラスタリング結果を2次元で(きれいに)可視化したい

4次元は可視化出来ない → 次元削減

```
model = KMeans(n_clusters=3, random_state=0)
model.fit(iris.data)
cluster=model.predict(iris.data)
print(cluster)

plt.scatter(iris.data[cluster==0,0],iris.data[cluster==0,1])
plt.scatter(iris.data[cluster==1,0],iris.data[cluster==1,1])
plt.scatter(iris.data[cluster==2,0],iris.data[cluster==2,1])
plt.show()
```

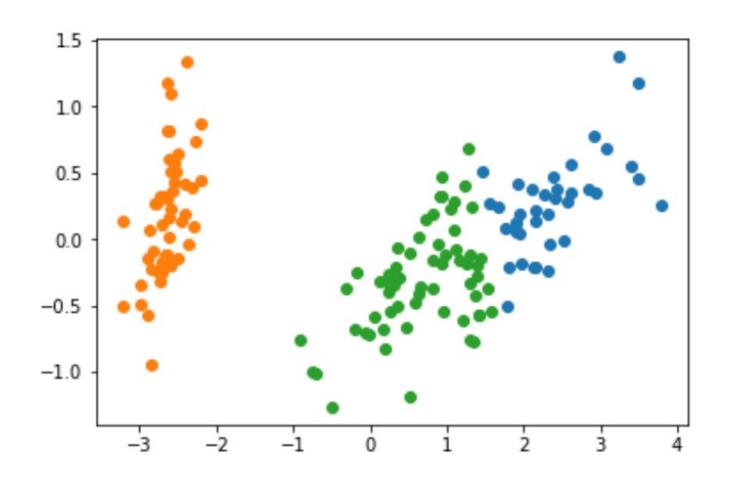
```
model = KMeans(n_clusters=3, random_state=0)
model.fit(iris.data)
cluster=model.predict(iris.data)
print(cluster)

from sklearn.decomposition import PCA
model2 = PCA(n_components=2)
result = model2.fit_transform(iris.data)

plt.scatter(result[cluster==0,0], result[cluster==0,1])
plt.scatter(result[cluster==1,0], result[cluster==1,1])
plt.scatter(result[cluster==2,0], result[cluster==2,1])
plt.show()
```

150個のデータを4つの説明変数で3つのグループに分ける(クラスタリング) 4つの説明変数を2つの新たな説明変数にしてX軸、Y軸に設定(次元削減)

3次元以上のクラスタリング結果を2次元で(きれいに)可視化したい



150個の正解を与えていないデータをクラスタリングによって3つグループに分けた (次元削減は2次元で可視化するために使用)

教師無し機械学習のまとめ

次元削減

目的:多次元のデータを2~3次元に減らす

結果:2次元や3次元の特徴量

使用例)

→データの前処理 解析しやすくする

可視化することが出来る

- →データの全体像の把握
- →きれいに分かれるかどうかはやって みないとわからない

分かれればその集団は他と違う特徴を もっていることが分かる クラスタリング

目的:多次元のデータを決めた数でグルーピングする

結果: クラスタ1,2,3などのクラスタ番号

使用例)

- →正解が分からなくてもグループに分けられる 似ているデータ群を抽出出来る
 - ・アンケート結果から3つのグループに分ける グループから特徴を抽出できる
 - ・大量の記事をクラスタリングしてキーワードを 抽出する

課題

アヤメのデータの花びらの長さと幅を使ってKMeans法によるクラスタリングを実施して下さい

- ・クラスタ数を3つにしてrandom_stateは1にして下さい X軸に花びらの長さ、Y軸に花びらの幅にして散布図を提出して下さい ファイル名は"kadai14_1_学籍番号_名前.png"にしてください
- ・クラスタ数を5つにしてrandom_stateは4にして下さい X軸に花びらの長さ、Y軸に花びらの幅にして散布図を提出して下さい ファイル名は"kadai14_2_学籍番号_名前.png"にしてください

最後にアンケートに答えてください 【授業後アンケートのお願い】 このWebClass上(医療とAI・ビッグデータ応用)の一番上にある追加アンケート